



菊の花咲くや石屋の石の間あい

芭蕉ばしやう

石の間に、わずかな土と水を頼りに精いっぱい生きている一本の花。人間誰だって、この花と同じように厳しい環境の中でも、自分だけの花を咲かせなければならぬのだ、とこの句は教えてくれます。

イソップ物語「ゼウスと人間」は、人の嫉妬と欲望を描いています。動物が、神から強い力や空を飛ぶ翼を与えられたのに対し、人は生まれた時は裸のままです。「なぜか」を問われたゼウスは、次のように答えています。「お前（人間）には何より立派な『理性』という大きな力を授けた」と。

さて、来年は日本でラグビーのワールドカップが開催されます。ラグビーのフォワードに「花となるより根となる」という言葉が受け継がれていると聞いたことがあります。根（スクラム）がしっかりしないと、花（トライ）は咲きません。「ワン・トライ」を指す、いわば花となる選

手のために、必死にスクラムを組む「根っこ」の選手に光を当て、観戦することも大切です。

ワールドカップやオリンピック・パラリンピックでは、外国チームが国内で合宿を行います。県内の合宿誘致を指す複数の市の取り組みを紹介するために、3年前に外国のオリンピック委員会を訪問しました。

県内では、鹿屋市や薩摩川内市で海外チームの合宿が行われることになりました。本市でも合宿するチームを誘致できたら素晴らしいのですが、運動施設などの整備が遅れ、現実的に難しいところです。作家の故・司馬遼太郎しばりょうたろうさんが書いた「二十一世紀に生きる君たちへ」という本があります。

「いたわり」「他人の痛みを感じる」と『やさしさ』みたいな似たような言葉である。この三つの言葉は、もともと一つの根から出ているのである。

根といっても、本能ではない。だから、私たちは訓練をしてそれを身につけねばならないのである。その訓練とは、簡単なことである。例えば、友達がころぶ。ああ痛かったろうな、と感じる気持ちを、そのつど自分の中でつくりあげていきさえすればよい「平易な文章ですが、心にしみませぬ。自然への畏怖いふの念や「自分にきびしく、相手にはやさしく」と、自己の確立を説いています。そこには「理性」という生きた言葉があります。

ところで、11月1日は1が並ぶので「ワン・ワン・ワン」「犬の日」だそうです。「ワン」、それはオンリーワンの「ワン」、勝利の「ワン」でもあります。

1月11日も「ワン・ワン・ワン」、正月まであと2カ月です。



指宿市長
豊留悦男とよどめ えつお